2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日２００６年1月　３１日

Ⅰ　概要

実践団体・担当者名	国立病院機構災害医療センター臨床研究部（担当者：原口義座）	
連絡先	TEL：042 526 5563、または 042 526 5511(ex.3170, 2303)　FAX:042 526 5540	
プランタイトル	中学生に対する医療面からみた災害医療教育体制の確立と災害医療教科書の作成	
目的	昨年作成した高校生版の災害医療教科書の作成の延長にあるものとして、今年度は中学生にも災害と災害時の医療の必要性をしってもらう、といことを目的とした。	
プランの概略	災害時には、一般の人にも、災害にあった人々の命を救う、外傷を軽くする、早く回復させる、精神的・心理的にバックアップするなど知ってもらいたい大変重要な項目があり、これら全体像を災害医療という。しかし災害時の医療の教育体制は、欧米先進国においても十分ではないと思われます。今回は、中学生にも、災害の怖さと、同時に災害時の医療・健康危機管理の重要性を理解してもらい、お互いに助け合えるようになるための教材の試作を作成しました。 具体的には、まだ不備な点もあるが、以下の項目を取り扱ったものである。第1部　あなたは、どうかんがえますか？　幸福の王子から。 第2部　　ーきみたちも、海の事故を少し考えてみようー 第3部　　最終章　災害医療の概論 　更に、基礎資料として、既に作成していた現代災害医療早分かり簡便時点　用語集と用語説明と用語説明を、不足項目を補足し、また判りやすいように修正を加えた改訂版を作成した。今後、これらの資料を、各学校に送付し、参考資料として使用してもらうことを希望している。	
プランの対象と参加人数	基本的には、現地の取材による資料収集、デスクワークとしての資料の編纂が中心である。	
実施日時		
主な実施場所	国立病院機構災害医療センター臨床研究部	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	
	連携した団体名	福祉福祉広域ネットワーク　サンダーバード、　健康の駅　とうきょう
	連携したきっかけ・理由	医療面から災害に対応している団体として
	連携団体へのアプローチ方法	既に原口義座、友保洋三が、上記団体のメンバーの一員として活動しており、
	連携団体との打合せ回数	２回程度
	連携団体との役割分担	一般の人への教育のアドバイスを

Ⅱプラン立案過程

プラン立案メンバーの人数・役割	団体内のスタッフ総人数	４名
	外部スタッフの総人数	３名
	主なメンバーの役職・役割	原口義座　国立病院機構災害医療センター臨床研究部・病態蘇生研究室長　資料収集等 友保洋三　同　臨床研究部長　全体調整役 矢部多加夫　同　耳鼻科医長：災害弱者関係 鈴木伊都子　事務調整・資料収集 鈴木　宏　メデイアクラン㈱代表　画像収録・編集 安井あゆみ　健康の家・サンダーバード　運営責任者　他
プラン立案に要した日数・時間	立案期間	2005年４月１日　～2006年２月28日
	立案時間	５時間×　10回 時間×　回
	上記のうち打合せ回数	５　回
プラン立案で注意を払った点工夫した点	災害医療全体を大きく、体系的にとらえたその上で、次のステップとしての非医療部門の一般の方々にも理解してもらえる内容とすることを大きな目標としており、更に、各年代別に、主旨・力点を変える必要があると考えその方向で注意を払った。	
プラン立案で苦労した点	中学生に適当な内容の選択には、異論があるところと思われる。また、医療にどえほど特化すべきかも問題である。今回の試案をたたき台として、今後の、補追・修正を考える必要もあろうと考えている。	

Ⅲ実践にあたっての準備　　基本的に上記と同様である。

準備に関わった方と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	４名
	外部スタッフの総人数	３名
	主なメンバーの役職・役割	基本的に同じ
準備に要した日数・時間	準備期間	年　月　日～　年　月　日
	準備総時間	時間×　回
	上記の内打合せ回数	回
教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	学校紹介をお願いしている段階、後日講義等の機会を期待している
	どのように働きかけたか	
	結果	資料完成が遅れたため、間に合わず

地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	立川防災基地における防災航空祭等で、広めている。その他、大企業の防災担当者にも働きかけている
	どのように働きかけたか	パンフレット配布、医療との連携を含めて資料等を送付している
	結果	結果待ち
保護者・ＰＴＡへの働きかけ	働きかけた保護者・ＰＴＡ組織名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	印刷物数種類
	入手先・入手方法	①自作成　テキスト類 ②印刷会社依頼　現代災害医療早分かり簡便辞典 ③自作成　カレンダー式
	機材・教材選定の理由（なぜこの機材・教材を選んだのか）	①教育用テキストブックの原案として ②基礎資料として ③小学生用のカレンダーとして、これからのたたき台用に
参加者の募集	募集方法	
	募集期間	年　月　日 ～　月　日
	参加予想人数	名
	実際の参加人数	名
	募集方法の成功点	
	募集方法の失敗点	
準備で苦労した点・工夫した点		

Ⅳ　タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11 月			
12 月			
2005 1 月			
2 月			
3 月			
4 月	中学生用災害医療概論の作成	基礎資料の収集：新潟県中越地震半年後の現地視察から	
5 月			
6 月	第1部、第2部の作成開始		
7 月			
8 月			
9 月			
10 月	暫定的に作成	風水害の被害の歴史的考察も含めた現地視察	
11 月	災害医療カレンダー：小学生用の作成にかかる		
12 月		津波災害の教育用資料の収集	
2006 1 月			

Ⅵ実践後

参加者への アンケート結果		
成果として得たこと		
成果物	①中学生用テキスト文章 ②現代災害医療はやわかり簡便辞典:用語集と用語説明改訂版 ③小学生用災害医療カレンダー なお、上記テキストは、私たちが作成している「災害医療大系」の中の、災害医療教育(第8巻)の一部に含まれるものである。	
広報方法	広報した先	
	広報の方法	
	取材にきたマスコミ	
	広報された内容	
	成功点	
	失敗点	
全体の感想と 反省・課題		
今後の予定	来年度以降の進め方	本資料を、広く配布し、また講義等の機会をとらえて伝達することにより、中学生の災害医療への motivation を高めることを当面の目標としている。
	是非実施してみたい 取り組み	基本的には、全ての国民が、災害と災害医療を知っている、活動できることが望ましい。いわゆる civil defense という考え方である。しかし、年代的に適応した内容とすべきであろう。以下のごとく考え、総合的な教育体制を組み立てたい。 小学生低学年　災害の初歩的知識　逃げること・けがを知らせる 小学生高学年　災害知識と情報伝達、健康管理の初歩 中学生　災害の種別・予測可能な災害　災害医療の基本:救命処置とトリアージ 高校生　災害のやや専門的な知識　と　災害医療の現状を知り、参加／協力の意思・可能性を考える 大学生:非医療分野　自分の専門分野からみた災害への関係をしり、災害医療への貢献・関係を考える 大学生:医療分野　自分の専攻する医療分野と災害との関係からの分析能力の獲得、災害医療への参加の可否 一般の人:大学生に準ずるが、一つの特徴として災害弱者を含めた家族単位での指導的役割をになう行動が必要であり、その観点からの教育体制
自由記述		